

心理福祉学科

白川 充
鈴木 敏明
渡邊 兼行
郡山 昌明
志水 田鶴子

茂木 千明
家子 敦子
松崎 吉之助
吉田 弘美
嘉村 藍

三浦 和夫

自己点検表

教員個別表

フリガナ シラ カワ ミツル 氏名 白川 充	職名 教授 人間学部 心理福祉学科	取得学位 社会学修士 (大学名) 東北福祉大学 (取得年月) 1984年3月
---------------------------	----------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績(2012.4～2017.3)

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
1. リアクションペーパーによる授業理解度と質問内容の把握	2004～ 現在に至る	<p>講義科目「ソーシャルワーク基礎論」「ソーシャルワーク論 A」は、授業展開と受講者数の関係で、教員側からの説明、解釈を伝えることが中心である。そこで、リアクションペーパーに、①「理解できたこと」、②「理解できなかったこと・感想」を記述してもらうことにより、授業内容に関する学生理解を把握している。</p> <p>また質問については、LMS を活用し次回の授業内容とともに回答を付けた PowerPoint を掲載し、さらに授業の中で解説するようにしている。</p>
2. ICT 活用教育への取り組み	2008～ 現在に至る	<p>ICT 活用教育として、他学科の教員、本学科の助教とともに、①LMS を利用した e-learning による社会福祉国家試験対策システムの開発を行った。また、現在も LMS を活用して、①予習・復習用教材の提示、②授業関連の情報提供、③ブレンディッド・ラーニングの試行(フォーラム機能の活用とレポート課題の添削指導)を行っている。</p>
3. 「2013 年度人間発達研究センターICT 活用プロジェクト・Moodle を利用したブレンディッド・ラーニングの試行と学生アンケートに関する報告書」の作成	2015.3	<p>ICT 教育の一環として取り組んできた Moodle を活用したブレンディッド・ラーニングの試行について、受講学生に対するアンケート調査をもとにその有用性と課題について報告書をまとめた。</p>

(2) 過去 5 年間の研究業績(2012.4~2017.3)

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
1. 社会福祉士相談援助実習(第2版)	共著	2014.2	中央法規出版		白澤政和他	56-67 頁
2. 相談援助実習・実習指導(第2版)	共著	2014.3	久美		米本秀仁他	152-161 頁 324-334 頁
3. 相談援助演習(第2版)	共著	2015.2	中央法規出版		白澤政和他	298-302 頁
[論文]						
1. 福祉専門職養成教育の課題と「高砂プロジェクト」の取り組みー福祉教育の高度化と原点をめぐってー	単著	2012.8	『福祉介護テクノプラス』vol.5 No.8			17-20 頁
2. e-Leaning による学年別社会福祉士国会試験対策システムの試行	共著	2013.3	仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要第8号	嘉村藍他		33-47 頁
[調査報告]						
1. 平成 24 年度 社会福祉振興・試験センター助成事業「社会福祉士の質の向上に資するコア・カリキ	共著	2013.3	社団法人日本社会福祉教育 学校連盟	野村豊子他		13-20 頁

ユラムに関する研究」報告書						
2. 2013 年度 人間発達研究センターICT 活用プロジェクト Moodle を利用したブレンディッド・ラーニングの試行と学生アンケートに関する報告書	共著	2015.3	仙台白百合女子大学人間発達研究センター	白川充他		7-11 頁 21-30 頁 64、67-68 頁 70-71 頁
3. 科学研究費助成事業 基盤研究C「災害ソーシャルワーク理論の体系化に向けた『機能特性』に関する実証的研究(調査報告書)」	共著	2017.1	仙台白百合女子大学	白川充他		1-154 頁
4. 科学研究費助成事業 挑戦的萌芽的研究「教育モデルと評価システムの構築による福祉専門職養成教育に関する総合的研究(研究報告書)」	共著	2017.3	仙台白百合女子大学	嘉村藍他		9-63 頁
[その他]						
1. シンポジウム「社会福祉教育研究の多様性と共通基盤をめぐって」	共著	2013.1	日本社会福祉教育学会誌 第7号	志水幸他		27-81 頁
2. シンポジウム「ソーシャルワーク教育に関するコア・カリキュラムの検討ーソーシャルワーク研究と教育と実践の立場からー」	共著	2014.12	ソーシャルワーク学会誌 第28・29号	白川充他		65-93 頁
3. シンポジウム「実習『前』評価システムの検討とOCSE の試行」	共著	2016.3	日本社会福祉教育学会誌 第14号	白川充他		111-141 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共著の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月	発表場所
1. 社会福祉専門職教育の実践的な課題ーコア・カリキュラム及び卒業進路に関する調査を基にー(発題者)	2012.10	2102 年度全国社会福祉教育セミナー・第 5 分科会(東北福祉大学)
2. ソーシャルワーク教育に関するコア・カリキュラム構想の検討ーソーシャルワーク研究と教育と実践の立場からー(コーディネーター)	2013.6	第 30 回日本ソーシャルワーク学会・大会校企画シンポジウム(仙台白百合女子大学)
3. 学士課程教育における社会福祉学分野の参照基準と今後社会福祉教育・研究の課題(シンポジスト)	2015.2	日本社会福祉教育学会 第 5 回春季研究集会シンポジウム(大妻女子大学)
4. 災害ソーシャルワーク理論の体系化に向けた「機能特性」に関する実証的研究(2)	2015.7	第 32 回日本ソーシャルワーク学会 自由研究報告(日本社会事業大学)
5. 実習「前」評価システムの検討ーOSCE の試行とその成果を踏まえてー(コーディネーター)	2015.8	日本社会福祉教育学会 第 11 回大会学会企画シンポジウムⅡ(東北公益文科大学)

6. 社会福祉教育における IPE の現状と今後の課題に関する総合的検討(コーディネーター)	2016.9	日本社会福祉教育学会第 12 回大会 学会企画シンポジウム(関西学院大学)
7. ソーシャルワークの新たな可能性ー司法福祉の現在と未来ー(コメンテーター)	2016.11	日本ソーシャルワーク学会 2016 年日本ソーシャルワーク学会セミナー(立正大学)
8. 地域包括ケアの推進とコミュニティソーシャルワークの接点を探る(コーディネーター)	2016.12	日本ソーシャルワーク学会 ソーシャルワーク・コラボ in 仙台(エルソーラ仙台)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本社会福祉学会		1983
日本ソーシャルワーク学会	2012.4~2020.3 学会理事	1995
日本社会福祉教育学会	2014.10~2017.9 学会理事	2006

III 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度(西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額(円)
文部科学省	2012	平成 23 年度文部科学省先導的・大学改革推進委託事業	福祉系大学における人材養成機能向上に関する調査研究(研究分担者)(日本社会福祉教育学校連盟)(研究分担者)	4,614,000 円

日本学術振興会	2013－2016	平成 25 年度科学研究費助成事業（基盤研究 C）	災害ソーシャルワーク理論の体系化に向けた「機能特性」に関する実証的研究（研究代表）	4,810,000 円
仙台白百合女子大学	2013	2013 年度学内研究費による共同研究	福祉専門職養成教育における臨床実習前評価のための CBT・OSCE 開発に関する研究（研究代表）	918,000 円
日本学術振興会	2014－2016	平成 26 年度科学研究費助成事業（挑戦的萌芽研究）	教育モデルと評価モデルの構築による福祉専門職養成教育に関する総合的研究（研究分担者）	3,510,000 円

3. 特記事項

（非常勤）

1. 東北福祉大学 「社会福祉援助技術演習 I・II」(2010.4～2013. 3)

（講演会・講習会等）

1. 「実習指導概論」(社会福祉士実習指導者講習会(2009.4～2013.3))
2. 社会福祉士・精神保健福祉士 実習担当教員講習会(講師)(2015～2017)

（社会的活動）

1. 日本社会福祉教育学校連盟 東北ブロック評議員(2007.4～2009.3, 2011.4～2013.3)
2. 日本社会福祉教育学校連盟 社会福祉専門教育委員会 委員(2007.4～2013.3)
3. 社会福祉法人仙台いのちの電話 評議員(2010.12～2018.11)
4. 日本ソーシャルワーク学会 査読委員(2012.7～2014.6)

(大学の運営管理上の実績)

1. 総合福祉学科 人間福祉専攻主任(2007.4～2009.3)
2. 学生部長(2009.4～2013.3)
3. 教務部長(2013.4～2014.3)
4. 人間学部長(2014.4～2016.3)
5. 心理福祉学科長(2016.4～2017.3)

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏名	スズキ トシアキ 鈴木 敏明	職名 人間学部	特任教授 心理福祉学科	取得学位 (大学名)	教育学修士(教育心理学) 東北大学 (取得年月) 1976年 3月
------------	-------------------	------------	----------------	---------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
[教育内容・方法の工夫]		
1. 東北大学における教職に関する科目の担当	1995.10 ～ 2015.3	東北大学において「相談心理学」と「人間関係論」(いずれも教職に関する科目。平成13年度からはカリキュラム改訂に伴い「相談心理学I」と「相談心理学II」)を担当し、生徒指導、教育相談及び進路指導の理論と方法について、主に心理学の観点から、学校現場における豊富な具体例を踏まえた指導を行った。
2. 東北大学大学院教育学研究科における科目の担当	1999.10 ～ 2016.3	東北大学大学院教育学研究科において「発達臨床論特論II」並びに「発達心理学特論II」を担当し、青年心理学・学生相談の理論と具体的方法論について事例を踏まえた臨床心理学の観点からの演習及び「聴き取り」という方法論の心理学的特性についての演習を行った。
3. 仙台大学における教職に関する科目の担当	2001.10 ～ 2016.3	仙台大学において「教育相談」(教職に関する科目)を担当し、保健体育等の教員として具備すべき生徒指導のための資質条件をクリアさせることを目標とし、具体的なケーススタディを組み込んだ指導を行った。
4. 宮城高等歯科衛生士学院における基礎科目の担当	2006.4 ～ 2017.3	宮城高等歯科衛生士学院において「心理学」(基礎科目)を担当し、歯科診療における患者対応及びチーム医療において要求される心理学的素養の形成を目標とした指導を行った。
5. 仙台白百合女子大学における心理学関連科目の担当	2016.4 ～	仙台白百合女子大学人間学部心理福祉学科において主に専門教育課程及び教員養成課程における心理学関連科目を担当し、本学のディプロマポリシーに沿った指導を行っている。

<p>[作成した教科書, 教材, 参考書]</p> <p>1. 『学生のための心理・教育的支援』 企画・編集を担当 (東北大学高等教育開発推進センター)</p> <p>2. 『新・青年心理学ハンドブック』 「第 33 章・進学競争」を担当 (福村出版)</p>	<p>2012.6</p> <p>2014.1</p>	<p>学生相談と発達障害学生の支援を取り上げ,その理解を助ける豊富な情報と事例を紹介した。対応のポイントが簡潔にまとめられているだけでなく,社会全体としてこの問題にどう取り組んでいるのか, 海外の大学ではどのように対応しているのかといった情報を提供した。</p> <p>現代の日本においては, 青年の在り方に対する学校システムの規定力が非常に大きい。本稿では, 大学入試システムと青年期心性の相関関係についての示唆を提供した。</p>
<p>[教育方法・教育実践に関する講演等]</p> <p>1. 「適合的入学者へのアプローチ」(東北大学大学教育支援センター)</p> <p>2. 「学生のための心理・教育的支援～学生相談の基礎知識～」(東北大学大学教育支援センター)</p> <p>3. 「学生のための心理・教育的支援～発達障害学生への視点～」(東北大学大学教育支援センター)</p> <p>4. 「大学教員に求められる異文化理解～留学生と共に考える～」(東北大学大学教育支援センター)</p> <p>5. 「発達障害のある学生と大学教育ーアスペルガー障害と注意欠如・多動性障害(AD/HD)を中心としてー」(東北大学大学教育支援センター)</p> <p>6. 「学生支援の動向ー修学支援とキャリア支援」(東北大学大学教育支援センター)</p> <p>7. 「大学教育と青年期発達」(東北大学大学教育支援センター)</p>	<p>2012.2</p> <p>2012.8</p> <p>2012.11</p> <p>2012.12</p> <p>2013.11</p> <p>2014.2</p> <p>2014.3</p>	<p>東北大学大学教育支援センター主催 PD セミナー『適合的入学者へのアプローチ』の企画及び講師を担当した。</p> <p>東北大学大学教育支援センター主催 PD セミナー『学生のための心理・教育的支援～学生相談の基礎知識～』の企画及び司会・進行を担当した。</p> <p>東北大学大学教育支援センター主催 PD セミナー『学生のための心理・教育的支援～発達障害学生への視点～』の企画及び司会・進行を担当した。</p> <p>東北大学大学教育支援センター主催 PD セミナー『大学教員に求められる異文化理解～留学生と共に考える～』の司会・進行を担当した。</p> <p>東北大学大学教育支援センター主催 PD セミナー『発達障害のある学生と大学教育ーアスペルガー障害と注意欠如・多動性障害(AD/HD)を中心としてー』の企画及び司会・進行を担当した。</p> <p>東北大学大学教育支援センター主催 PD セミナー『学生支援の動向ー修学支援とキャリア支援』の企画及び司会・進行を担当した。</p> <p>東北大学大学教育支援センター主催 PD セミナー『大学教育と青年期発</p>

達』の企画及び講師を担当した。なお、このセミナーは東北大学大学支援センターHP上の「PDP Online」にて視聴可能である。
<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/archive/detail.php?id=19>

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
1. 学生のための心理・教育的支援	編著	2012.6	東北大学高等教育開発推進センター	池田忠義, 堀匡, 佐藤静香, 田中真理	編著者: 鈴木敏明 執筆者4名	83 頁
2. 新・青年心理学ハンドブック	共著	2014.1	福村出版	後藤宗理 他 130名	編集者: 後藤宗理, 二宮克己, 高木秀明, 大野久, 白井利明, 平石賢二, 佐藤有耕, 若松養亮	423 頁 ~ 433 頁
[論文]						
2. 齋藤・杉本・亀田・平石論文『大学生における自己の構造発達—Kegan の構造発達理論に基づいて—』を読んで	単著	2012.6	青年心理学研究, 第 24 巻, 第 1 号	松井賢二, 西條秀俊, 原口恭彦		85 頁~89 頁
3. 情報委員会報告: 関連研究の紹介(2011 年度)	共著	2012.9	キャリア教育研究, 第 31 巻, 第 1 号			27 頁~30 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
1. 日本教育心理学会 2. 東北心理学会 3. 日本青年心理学会 4. 全国大学入学者選抜研究連絡協議会 5. 日本キャリア教育学会 6. 法と心理学会 7. 日本心理学会 8. 日本学生相談学会	研究委員(2005.4~2008.3) 大学入試センター『大学入試研究ジャーナル』査読委員(2011.10~) 第30回大会実行委員(2008), 理事・選挙管理委員(2009.1~2012.10), 研究奨励賞選考委員(2011.7), 情報委員会副委員長(2011.10~2012.10)	1776年~2013年, 2016年再入会 1979年 1996年 1999年 2006年 2014年 2016年 1985~2013年, 2016年再入会

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

[非常勤講師]

1. 仙台大学「教育相談」(2001.10～2016.3)
2. 宮城高等歯科衛生士学院「心理学」(2006.4～2017.3)
3. 放送大学「心理と教育」(2012.4～2014.3)

[講演会・研修会等]

1. 萩友会(東北大学同窓会)大阪会場において東北大学の入試システムの特徴について講演(2011.2)
2. 夢ナビライブ(国公立大学・私立大学合同ガイダンス)in Nagoya における講演(2011.6)
3. 夢ナビライブ(国公立大学・私立大学合同ガイダンス)in Osaka における講演(2011.7)
4. 夢ナビライブ(国公立大学・私立大学合同ガイダンス)in Tokyo における講演(2011.7)
5. 青森県立五所川原高校進路講演会の講師(2011.7)
6. 秋田県立横手高校進路講演会の講師(2011.7)
7. 主要大学説明会 2011 仙台会場の講師(2011.8)
8. 山形県近県3県難関大志望者学習会「春の学校」進路講演会の講師(2012.3)
9. 東北大学進学説明会(大阪会場)での講演(2012.7)
10. 青森県立五所川原高校進路講演会の講師(2012.7)
11. 秋田県立横手高校進路講演会の講師(2012.8)
12. 代々木ゼミナール仙台校『東北大学説明会』の講師(2012.8)
13. 宮城県宮城野高等学校「土曜ゼミナール」講師(2012.12)
14. 東北大学入試説明会(仙台会場)での講演(2013.6)
15. マイナビ進学フェスタ仙台会場『東北大学説明会』の講師(2013.7)
16. 東北大学進学説明会(大阪会場)での講演(2013.7)
17. 代々木ゼミナール仙台校『東北大学説明会』の講師(2013.7)
18. 青森県立五所川原高校進路講演会の講師(2013.7)
19. 秋田県立横手高校進路講演会の講師(2013.8)
20. 東京大学主催 2013 主要大学説明会(仙台会場)での講演(2013.8)
21. 青森県立田名部高校大学説明会の講師(2013.10)
22. 栃木県立小山高校進路講演会の講師(2013.11)
23. 東北大学／宮城県教育委員会主催「キャリア・フォーラム in 気仙沼」の企画・実施・総括(2013.11)
24. 青森県立青森東高校東北大学進学説明会の講師(2013.12)
25. 青森県立五所川原高校進路講演会の講師(2014.7)
26. 夢ナビライブ(国公立大学・私立大学合同ガイダンス)in Sendai における講演(2014.10)

[自治体等での社会的活動]

1. 宮城県教育庁生涯学習課登録講師(2007.4～)

[取材対応等]

1. 『Between』(2011 4-5月号)(進研アド)への取材対応(2011.2)
2. 『Y-SAPIX Journal』(2015 8-9月号)(Y-SAPIX)への取材対応(2015.7)

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ ワタ ナベトモ ユキ 氏 名 渡 邊 兼 行	職 名 准教授 人間学部 心理福祉学科	取 得 学 位 Ph.D. (大学名) タフツ大学	(取得年月) 2001 年 5 月
---	---------------------------------	------------------------------------	-------------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 「心理学」 3 回の中間テストとそのフィードバックによる自己制御学習の促進	2009.4～	共通科目「心理学」の授業において、中間テストを 3 回設け、その解答返却を 1 週間以内に行った。これにより、受講者の理解度の把握を助け、各自が自己の進捗を確認しながら授業に参加できるような体制を整えた。
2. 「心理学」 実験参加を評価に取り入れることによる、心理学の実証的側面の体験的理解の促進	2009.4～	共通科目「心理学」の授業において、教員や上級生の実施する実験への参加を成績評価の一部に反映させた。これによって、心理学の実証的側面に触れる機会を設け、体験的理解を促すことを狙った。
3. 「心理学」 授業ブログ・授業サイトの設置	2013.4～	授業ブログを設置し、補足資料を配布するなどして、学生の自学自習の補助とした。2016 年度からは、Google Classroom を利用して、課題の提出も web 上から可能となった。
4. 「認知心理学」 毎回の予習課題の提示	2011.4～	「認知心理学」の授業において、学生の自学自習を促すため、毎回の予習課題を課した。2016 年度からは、Google Classroom を利用して、課題の提出も web 上から可能となった。
5. 「認知心理学」 授業ブログ・授業サイトの設置	2014.4～	授業ブログを設置し、補足資料を配布するなどして、学生の自学自習の補助とした。2016 年度からは、Google Classroom を利用して、課題の提出も web 上から可能となった。
6. 「心理学基礎論」 毎回の予習課題	2010.9～	「心理学基礎論」の授業において、学生の自学自習を促すため、毎回の予習課題を作成し、課した。2016 年度からは、Google Classroom を利用して、課題の提出も web 上から可能となった。

7. 「心理学基礎論」 授業ブログ・授業サイトの設置	2014.4～	Google Classroom を利用して、資料の配布、課題の提出も web 上から可能となった。
8. 「心理学基礎論」 高い比重の発言点を導入	2010.9～	「心理学基礎論」の授業において、活発な授業参加と学生の表現力の向上を目指して、発言の成績に対する比重を 25%とし、積極的な発言と授業参加を促した。
9. 「心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱ」のコーディネーター	2009.4～	心理学担当教員 3～4 名で、小グループを担当して行う実験実習の授業において、コーディネーターとして授業のプログラム作り、教員間の調整作業に従事した。
10. 「心理福祉入門」のコーディネーター	2013.4～	心理福祉学科全教員によるオムニバス科目である「心理福祉入門」において、授業計画の作成、課題や評価の取りまとめなど、コーディネーターとしての役割を果たした。
11. 「心理学基礎演習Ⅱ（英文講読）」におけるチャットを導入したゼミ形式の授業の運営	2015.4～ 2015.8	聴覚障害の学生のいるクラスでのゼミ形式の授業を成立させるため、チャットによる授業を導入した。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
1. 自ら実感する心理学 —こんなところに心理学—	共	2016.2	保育出版社		土肥伊都子(編) 他 25 名	57-58 63-64

[論文]						
1. 視線追尾実験による漢字認知過程の研究	共著	2015.2	仙台白百合女子大学紀要 19	熊谷健二(代表者)他3名		65-83 頁
2. 選択における個人差と自己選択効果 —不決断傾向と認知スタイルとの関係から—	単著	2015.2	仙台白百合女子大学紀要 19			103-113 頁
3. 大学生の学習方略と論述課題との関連について —授業時認知方略に着目して—	共著	2015.2	仙台白百合女子大学紀要 19	蛭名正司(代表者)他2名		135-144 頁
4. 英単語学習過程としての「記名」と「想起」の役割:手がかりとしての文脈か、符号化特殊性か	共著	2016.2	『英語教育学と認知心理学のクロスポイント —小学校から大学までの英語学習を考える—』 北大路書房	板垣信哉 他3名	太田信夫・佐久間康之(編)	214-226 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	共訳者名(共訳の場合)	監修者名と当該訳者数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1. 遊びを通してのひらめきが学習に与える効果	2012.10	公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団第19回研究成果発表会 ポスター発表
2. スモール&ビッグデータ	2014.6	日本認知心理学会第12回大会 セミナー(企画・司会)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本心理学会		1998
日本教育心理学会		1998
American Psychological Association		1999
東北心理学会		2001
日本認知心理学会		2003
日本教授学習心理学会		2005

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
日本学術振興会科研費	2014	基盤研究C	脳における味覚の情報処理メカニズムに関する神経生理学的および認知心理学的研究(研究分担者)	

3. 特記事項

--

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ コオリヤマ マサアキ 氏 名 郡山 昌明	職 名 准教授 人間学部 心理福祉学科	取得学位 社会福祉学修士 (大学名)東北福祉大学大学院 (取得年月) 2006年3月
------------------------------	------------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 演習科目において、臨床場面でより具体的な資料を用いて理解を深める工夫をした。	2003.4～	演習は、使用テキストを中心にその事例を用いて行っているが、学生がイメージできない状況であった。 2003.4 に本学に就任して以来、臨床での経験を活かし、社会資源等の資料をより現実的なものを学生に提供し、説明を加えて行った。
2. 各授業において「振り返り」票を用いて、学生の講義に対する理解と自らの【振り返り】を記載して次回の講義内容へ反映させた。	2003.4～	毎回の授業において「学習の振り返り」票を配付した。その中で学習の課題、授業への参加、感想と提案、イラスト(授業で受けた印象など)を記載してもらい、個々の学生の疑問、到達度、意欲などを把握して次回の授業の改善や個々の学生への指導材料とした。
3. 精神保健ソーシャルワーク体験実習指導および精神保健ソーシャルワーク臨床実習指導の授業時に使用する「実習の手引き」作成した。	2016.4～	授業時使用するテキストの他に、実習における計画書の作成や実習における留意事項などを具体的に記した補助教材を作成し学生指導を行った。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] 東日本大震災 地域生活支援「困った」ときのQ&A	共著	2014.03	全国コミュニティライフサポートセンター	全国コミュニティライフサポートセンター	大坂純他 11名で分担執筆	p20,p24,p31,p34,p41,p45,p49,p50,p52,p56,p62,p67
東日本大震災・被災者支援のためのサポーター						

ワークブック	共著	2013.03	全国コミュニティライフサポートセンター	全国コミュニティライフサポートセンター	大坂純他 11 名で分担執筆	
[論文]						
1. 精神障害者の就労支援における課題の明確化 —就労継続支援 B 型施設における利用者を中心に—	単著	2017.03	仙台白百合女子大学紀要			105-117 頁
2. 東日本大震災の記録—他大学との協働による生活物資配布活動を通して—	単著	2012.12	実践記録研究会 第 42 号	郡山昌明、志水田鶴子、廣庭裕、大坂純 郡山昌明、志水田鶴子、廣庭裕、大坂純		14-23 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本医療福祉学会 日本職業リハビリテーション学会 日本社会福祉学会 東北精神保健福祉学会		1986.4～ 2004～ 2005～ 2015～

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (千円)
宮城県	2013 年度	宮城県福祉・介護人材確保事業費補助金	被災地における精神的健康問題 (全4回)	2,867

3. 特記事項

宮城県社会福祉協議会 平成26年度宮城県サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者研修 講師 2016.11.07
--

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ シミズ タツコ 氏 名 志水 田鶴子	職 名 准教授 人間学部 心理福祉学科	取 得 学 位 修士(社会福祉学) (大学名) 東北福祉大学 (取得年月) 2001年3月
----------------------------	------------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
社会福祉士養成の実習・演習カリキュラムにおけるカスタマーティーチャーの活用に関する研究を行った	2005.1～現在	社会福祉士養成の実習・演習カリキュラムを効果的に運用するために、施設利用者・実習指導者・教員が学生に対して指導を行うプログラムを作成した。演習でのロールプレイに施設利用者が指導者として参加するカスタマーティーチャーを導入し、学生への指導を施設利用者にも担ってもらう教育体制を構築した。また体験学習では、実習指導者と教員が学生の到達課題を共有しながら教育に当たるプログラムを考案し実施した。この取り組みについては、「社会福祉士養成校における実習・演習カリキュラムの具体的展開に関する研究-実習先施設利用者・職員・教員の協働によるプログラム作成及び試行をふまえて」、仙台白百合女子大学紀要 2004,第9巻に発表した。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
被災地に置ける被災者支援従事者の介護人材に活用する方策に関する研究事業報告書 (平成27年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康推進事業)	共著	2016.3	一般財団法人 高齢者住宅財団	一般財団法人 高齢者住宅財団、大坂純、志水田鶴子、松崎吉之助、池田昌弘、船戸義和		14-37 40-53
生活支援コーディネーター養成テキスト	共著	2016.2	全国コミュニティライフサポートセンター	高橋誠一、大坂純、志水田鶴子、藤井博志、平野隆之他	高橋誠一、大坂純、志水田鶴子、藤井博志、平野隆之	42-49
改正介護保険制度における「新しい地域支援事業」の生活支援コーディネーターと協議体	共著	2015.7	全国コミュニティライフサポートセンター	高橋誠一、大坂純、志水田鶴子、酒井保	高橋誠一、大坂純、志水田鶴子、吉田昌司(監修)	
保健福祉学—当事者主体のシステム化学の構築と実践—(分担執筆第6章第6節)	共著	2015.3	(株)北大路書房		日本保健福祉学編集 40名	135-140
被災地の災害公営住宅における福祉・交流拠点の整備を通じた地域包括ケアへの支援に係る事業報告書	共著	2015. 3	一般財団法人 高齢者住宅財団	大坂純、志水田鶴子、松崎吉之助	日本介護福祉学会辞典編集委員会	102-105 113-115(考察)
介護福祉学辞典(分担執筆:⑤-16 介護福祉実践の評価研究)	共著	2014.12	ミネツヴァ書房	青木慎一郎、赤塚朋子他	日本介護福祉学会事典編纂委員会(200名)	208-209

[著書]						
地域支え合い活動・サービスのすすめ	共著	2014.12	全国コミュニティライフサポートセンター	高橋誠一,大坂純,志水田鶴子	高橋誠一,大坂純,志水田鶴子	66-71 72-85
東日本大震災・被災者支援のためのサポーターワークブック	共著	2014. 2	全国コミュニティライフサポートセンター		単元 12	58-59
地域生活支援「困った」ときの Q&A	共著	2014 . 3	全国コミュニティライフサポートセンター	大坂純,志水田鶴子,藤井博志,郡山昌明,荻田藍子 他 16 名 大坂純,志水田鶴子,浜上章,荻田藍子 他 7 名	キーワード 6~10 A3,A6,A7,A13,A19, A23,A27,A34,A38,A42, A44,A49	P.7 P.13~17 P.22P.25 P.26 P.32P.38P.42P .46P.53P.57 P.61P.63P.68
[論文]						

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
宮城県における被災者支援従事者研修の評価に関する研究(1)	2015年 6月	仙台市 東北福祉大学
宮城県における被災者支援従事者研修の評価に関する研究(2)	2015年 6月	仙台市 東北福祉大学

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本保健福祉学会		1999
日本社会福祉学会		2000
日本介護福祉学会		2002
日本職業リハビリテーション学会		2003
日本医療社会事業学会		2003
日本地域福祉学会		2003
日本老年社会科学会		2004
子ども虐待防止学会		2006

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
文部科学省	2011.4~2014.3	2011 年度科学研究費補助金 (基盤研究C)	地域包括ケアにおけるストレングスを促進するソーシャルワークの総合的研究	13,900,000
宮城県	2013. 5~2014.3	宮城県福祉・介護人材確保事業費補助金	被災地における精神的健康問題 (全4回)	3,800,000
宮城県	2014.5~2015. 3	宮城県福祉・介護人材確保事業費補助金	まちづくりの新たな試み (全4回)	2,867,960
				1,354,200

3. 特記事項

2011 年度	「宮城県社会福祉施設 新任職員研修」講師 社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会 (対象：社会福祉施設の新任職員 1 班)
2011 年度	「仙台市教職員互助会研修事業」講師 (講演テーマ：高齢期をよりよく生きる)
2012 年度	「宮城県社会福祉施設 新任職員研修」講師 社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会 (対象：社会福祉施設の新任職員 1 班 2 班 3 班 4 班)
2012 年度	「障害者虐待防止に関する事業者の責務と体制整備」, 「障害者虐待についての定義と特徴」講師 社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会
2013 年度	「宮城県社会福祉施設 新任職員研修」講師 社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会 (対象：社会福祉施設の新任職員 1 班 2 班)
2013 年度	障害者総合支援法講習会「障害者総合支援法のポイント」, 「福祉従事者が総合支援法の理念を具現化するために」講師 社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会
2013 年度	「宮城県社会福祉施設 新任職員研修」講師 社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会 (対象：社会福祉施設の新任職員 3 班 4 班)
2013 年度	復興公営住宅期の支援を考えるワークショップ 講師 (主催：全国コミュニティサポートセンター)
2013 年度	第 37 回東北ブロック身体障害者施設職員研修会 講師 (主催：東北ブロック身体障害者施設協議会)
2013 年度	秋田県湯沢市 愛光園 地域公開研修会 講師
2013 年度	宮城県被災者支援従事者研修 (基礎, ステップアップ, スーパーヴァイザー, 分野別, 災害公営住宅移行支援) 講師
2014 年度	秋田県精神保健福祉研修事業 講師
2014 年度	秋田県知的障害者福祉協会活動支援スタッフ研修 講師
2014 年度	大崎市保健所 高次脳機能障害支援者研修
2015 年度	宮城県リハビリテーションセンター 宮城県高次脳機能障害者支援スタッフ研修会 講師
2015 年度	富谷町民生委員児童委員協議会研修 講師
2015 年度	村田町社会福祉協議会 講演 講師

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ モテギ チアキ 氏 名 茂木 千明	職 名 准教授 人間学部 心理福祉学科	取 得 学 位 博士(学術) (大学名) 東北学院大学 (取得年月) 2004 年 3 月
---------------------------	------------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1.「家族関係単純図式投影法」を活用した授業の実施	1998.4～	家族アセスメントについて、家族構造を理解するための理論と技法から「家族関係単純図式投影法」を実施。学生自らが自分の家族を振り返り、実際の家族理解に役立てることを目的とする。
2.サイコドラマのセッションを取り入れた授業の実施	2000.4～2014	「臨床心理学」の演習または「心理療法論」の授業にサイコドラマを実際に体験するセッションを取り入れ、学生に集団のダイナミクス(集団心理療法)を経験的に学ばせることを目的とする。
3.遊戯療法の教材ビデオの作成および授業での視聴・解説	2000.9～2014	ある幼児を対象としたプレイセラピーの事例をビデオ編集し、遊戯療法に見られる「ごっこ遊び」を心理劇の視点および家族心理学の観点から解説して教材に用いている。
4.人間関係に関する様々なワークを取り入れた「考える」授業の実施 「人間関係論」「人間関係とコミュニケーション」	2003.4～2012.7 2017～	毎回授業内でワークと講義(解説)を行い、その中で自身が考えたことを記述させ、提出してもらう形式で授業を実施。自身のコミュニケーション、人間関係のあり方を振り返り、実際の場面で役立てることを目的とする。
5.人間発達総合演習Ⅱにおける研究報告書の作成	2003～2015 年 度	人間発達学科4年生のゼミで行った研究については、『「人間発達総合演習Ⅱ」研究報告書』として編集・印刷製本し、卒業時ゼミ生に配布、学科研究室にて保管。
6.「紙上ソーシャルアトム」を活用した授業の実施	2013.4～	2004 年度から実施し、学会でも「女子大生にとって大切な・身近なモノや人:紙上ソーシャルアトムを活用して」というテーマで発表しているが、2013 年度より心理福祉学科「心理福祉入門」の授業の中で「紙上ソーシャルアトム」を本格的に実施。学生の自己理解に役立てることを目的とする。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
[論文]						
1. 守秘義務教育の現状と課題(1): 保育園実習を終えた本学学生と現場の保育士および幼稚園教諭を対象として	共著	2013.6	人間の発達(仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要)第8号	森本幸子・神田あづさ・皆川美雪・佐々木美恵・遠藤寛子		23-32 頁
2. 児童養護施設の子どもが作成した生活関係図: 家族関係単純図式投影法を応用して	単著	2015.6	人間の発達(仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要)第10号			29-36 頁
3. 守秘義務教育の現状と課題(2): 教師とスクールカウンセラーを対象として	共著	2016.12	人間の発達(仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要)第11号	皆川美雪・森本幸子・神田あづさ・佐々木美恵・遠藤寛子		41-47 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1. 女子大生にとって大切な・身近なモノや人:紙上ソーシャルアトムを活用して	2012.11	日本精神衛生学会第 28 回大会(東京農工大)
2. 守秘義務および他職種との連携に関する意識:臨床実習前後での大学院生の意識の違い	2014.8	日本心理臨床学会第 33 回大会(パシフィコ横浜)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本家族心理学会		1993
日本心理臨床学会		1996
日本精神衛生学会		1996
日本カウンセリング学会		1999
日本健康心理学会		2001
日本学生相談学会		2008

III 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

<p>[学内の活動]</p> <p>1. 学生相談室 カウンセラー(2000.10～現在)</p> <p>2. 学生相談室 室長(学生相談室支援委員会委員長兼務) (2011.4～2013.10)</p> <p>3. 学修支援センター 学生相談室 主任(2015.4～現在)</p> <p>[学外の活動]</p> <p>1. 2003～2010 年度 :「家族相談士」養成講座(仙台会場) 講師 担当「家族アセスメント」</p> <p>2. 2009 年度:「家族相談士」継続研修講座 講師 テーマ「カウンセリングに活かすアセスメント技法」(2009.9.27)</p>

3. 2009 年度 : 公立保育所合同業務研修(太白保育所・八木山保育所) 講師 (2009.5.16 & 10.31)
4. 光が丘スペルマン病院 産婦人科: 母親学級への参加と心理的援助の実施 (2011.4~現在)
5. 2012~2013 年度: 復興大学復興人材育成教育コース「復興の思想」講師 担当「復興の心理」(2コマ) (2012.5.12 & 5.19) (2013.5.11 & 5.18)
6. のびすく泉中央「育ちの楽校」講師 テーマ「気になる! 子どものしつけについて~2、3 歳児のへの親の関わり」 (2012.12.19)
7. 福島県北精神保健福祉士会 × 県北医療ソーシャルワーカー協会 × 県北社会福祉士会(合同研修会): 「支援者の役割★私のキモチ」 講師 (2013.2.16)
8. 宮城県臨床心理士会 倫理委員 (2013.4~現在)
9. 宇都宮家庭裁判所「家裁調査官研修」講師 テーマ「家族関係単純図式投影法の活用: 家族アセスメントの視点から」 (2016.11.19)

1. 教員個別表

フリガナ 氏名	カノ コ アツ コ 家子敦子	職名 人間学部	講師 心理福祉学科	取得学位 (大学名)	看護学修士 宮城大学大学院	(取得年月) 2008年3月
------------	-------------------	------------	--------------	---------------	------------------	----------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
介護実習(I・II・III)	2003.4～現在	
介護実習要項の編集	～現在に至る	
講義「介護過程展開法II」	～現在に至る	
講義「介護過程展開法III」	～現在に至る	
講義「こころとからだのしくみ」	～現在に至る	
講義「医療的ケア」	～現在に至る	
講義「生活支援技術II」	～現在に至る	
「心理福祉総合演習I」	～現在に至る	
「心理福祉総合演習II」	～現在に至る	
「心理福祉総合演習III」	～現在に至る	
「心理福祉総合演習IV」	～現在に至る	

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発 表の年月(西 暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] 1. 利用者の様子が分かる記録の書き方	共	2010	日総研			
[論文] ・ 女子学生の生活習慣病という観点からみる生活習慣改善への関心—インターネット資料読み取り型学習から—	単	2015	仙台白百合女子大学紀要 19号			
・ 終末期ケア論における授業材料としての「病家須知」の検討	単	2014	仙台白百合女子大学紀要 18号 日本ルーラルナーシング学会誌第7 巻	高橋 由美		
・ 超高齢地域に暮らす高齢者が自立した在宅生活を継続するための看護職による健康支援活動	共	2012	第41回日本看護学会誌(老年看護)	高橋 由美		
・ 過疎化農村地帯に住む高齢者の思い	共	2010	仙台白百合女子大学紀要 15号	吉田弘美		
・ 初めての施設実習で遭遇した気がかりと感じた場面の分析(研究ノート)	共	2010	仙台白百合女子大学紀要 14号			
・ 新カリキュラムのよる介護総合演習の教育的課題	共	2009		吉田輝美		
・ 東北地方における急性期病院の看護師長が捉えている退院支援の構造(原著)	共	2009	日本看護管理学会誌 13巻2号	原 玲子		
[報告書] ・ 潜在的有資格者等養成支援事業報告書-キャリアアップ支援研修-	共	2012	聖和学園短期大学	東海林・原 田・庄子・吉 田・三浦		
・ 宮城県における高齢者の行動様式調査と高齢者のQOL向上を目指した情報システムの利用記録に基づく認知症の早期発見に関する研究調査事業	共	2012	東北学院大学			

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1. 施設実習における指導体制の現状と課題 —指導者への聞き取り調査結果より—	2007.8	第14回日本介護福祉教育学会
2. 初めての実習施設で遭遇した否定的な場面の分析	2008.8	第15回日本介護福祉教育学会
3. 急性期病院の退院支援における看護師長の視点と行動	2008.8	第12回日本看護管理学会
4. 急性期病院の看護師長からみたスタッフの退院支援に関する教育上の課題	2008.10	第39回日本看護学会
5. 介護実習前後における学生の実習態度・姿勢に関する自己評価	2008.11	第16回日本介護福祉学会
6. 過疎化農村地帯に住む高齢者の思い	2010.9	第41回日本看護学会 老年看護 学術集会
7. 超高齢地域に暮らす後期高齢者が自律した在宅生活を継続するための 看護職による健康支援活動(第一報)	2010.9	日本ルーラルナーシング学会 第5回学術集会
8. 施設介護職員へのキャリアアップ支援 —現場の事例を用いた介護過程の実際—	2012.9	第20回日本介護福祉学会
9. 施設介護職員へのキャリアアップ支援(第2報) —介護過程の実践研修前後の意識の変化より—	2013.10	第21回日本介護福祉学会
10. 介護職員に向けた介護過程展開シートの考案 —介護過程展開法の施設研修により—	2014.10	第12回日本介護学会

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
介護福祉士学会 介護福祉教育学会 日本ルーラルナーシング学会		2003～現在 2004～現在 2009～現在

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
仙台白百合女子大学	2011	共同研究 A	介護福祉士のための福祉用具評価ツールの開発	800,000

3. 特記事項

【講演会・研修会講師】

1. 2006年 介護技術講習会(介護福祉士国家試験の実技試験免除制度)講師
2. 2008年 (医)徳洲会 平成20年度東北ブロック介護職員中堅者研修 講師
3. 2009年 社団法人日本介護福祉士会・社団法人宮城県介護福祉士会主催 平成20年度介護福祉士養成施設実習指導者特別研修 講師
4. 2009年 (医)徳洲会 平成20年度東北ブロック看護・介護研究発表会 講師
5. 2010年 宮城県福祉・介護人材確保対策事業 キャリアアップ支援研修会講師
6. 2011年 社団法人日本介護福祉士会・社団法人宮城県介護福祉士会主催 平成23年度介護福祉士養成施設実習指導者特別研修 講師
7. 2011年 平成23年度(宮城県委託事業)被災者就労支援事業 介護員養成研修講師
8. 2011年 宮城県福祉・介護人材確保対策事業 修講師派遣事業研修会講師
9. 2012年 平成24年度(宮城県委託事業)被災者就労支援事業 介護員養成研修講師
10. 2012年 社団法人日本介護福祉士会・社団法人宮城県介護福祉士会主催 平成24年度介護福祉士養成施設実習指導者特別研修 講師
11. 2012年 宮城県福祉・介護人材確保対策事業 修講師派遣事業研修会講師
12. 2013年 平成25年度(宮城県委託事業)被災者就労支援事業 介護員養成研修講師
13. 2013年 社団法人日本介護福祉士会・社団法人宮城県介護福祉士会主催 平成25年度介護福祉士養成施設実習指導者特別研修 講師
14. 2013年 宮城県福祉・介護人材確保対策事業 修講師派遣事業研修会講師
15. 2014年 社団法人日本介護福祉士会・社団法人宮城県介護福祉士会主催 平成26年度介護福祉士養成施設実習指導者特別研修 講師
16. 2014年 宮城県福祉・介護人材確保対策事業 修講師派遣事業研修会講師
17. 2014年 宮城県福祉・介護人材確保対策事業 キャリアアップ支援研修会講師
18. 2015年 社団法人日本介護福祉士会・社団法人宮城県介護福祉士会主催 平成27年度介護福祉士養成施設実習指導者特別研修 講師
19. 2015年 宮城県福祉・介護人材確保対策事業 修講師派遣事業研修会講師
20. 2015年 宮城県福祉・介護人材確保対策事業 キャリアアップ支援研修会講師
21. 2016年 社団法人日本介護福祉士会・社団法人宮城県介護福祉士会主催 平成28年度介護福祉士養成施設実習指導者特別研修 講師

【事業助成】

1. 2010年 厚生労働省告示 宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成(1,406,000円)を受け、キャリアアップ支援研修会行動療法の導入を施設研修にて実施した。
2. 2011年 厚生労働省告示 宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成(2,340,000円)を受け、修講師派遣事業研修会を開催し、報告書としてまとめ、2012年第20回日本介護福祉学会で発表した。
3. 2011年 厚生労働省 老人保健健康増進等事業推進費等補助金(8,000,000円)を受け、東北学院大学 情報科学科坂本准教授らと宮城県における高齢者の行動様式調査と高齢者のQOL向上を目指した情報システムの利用記録に基づく認知症の早期発見に関する研究調査事業を行った。
4. 2012年 厚生労働省告示 宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成(1,230,000円)を受け、講師派遣事業研修会を開催し2013年第21回日本介護福祉学会で発表した。
5. 2013年 宮城県介護福祉士会と共同で厚生労働省・都道府県労働局 成長分野等人財育成支援事業の助成を受け、介護職員対象に人材育成施設研修を開催し、2014年日本介護学会にて4年分の成果を発表した。
6. 2013年 厚生労働省告示 宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成(468,000円)を受け、本学介護福祉士養成課程卒業生対象の研修を開催した。
7. 2014年 厚生労働省告示 宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成(1,816,000円)を受け、聖和学園短期大学と宮城県介護福祉士会共同で介護職員対象に講師派遣事業介護過程の展開研修会を開催した。
8. 2014年 厚生労働省告示 宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成(2,894,000円)を受け、宮城県介護福祉士会共同で介護職員対象にキャリアアップ支援研修全4回を企画開催した。
9. 2015年 厚生労働省告示 宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成を受け、聖和学園短期大学と宮城県介護福祉士会共同で介護職員対象に講師派遣事業介護過程の展開研修会を開催した。
10. 2015年 厚生労働省告示 宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成を受け、介護職員・養成課程所属学生合同事例報告会を企画開催した。

【社会貢献】

1. 2007年 第19回介護福祉士国家試験実地試験委員
2. 2007年 宮城県介護福祉士養成施設校協会事務局
3. 2008年 第20回介護福祉士国家試験実地試験委員
4. 2008年 第16回日本介護福祉学会実行委員
5. 2009年 第21回介護福祉士国家試験実地試験委員
6. 2010年 社団法人日本介護福祉士会主催 介護福祉士養成課程全国共通試験 問題作成協力委員
7. 2011年 第23回介護福祉士国家試験実地試験委員
8. 2011年 社団法人日本介護福祉士会主催 平成23年度介護福祉士養成施設卒業時共通試験問題作成協力委員
9. 2012年 社団法人日本介護福祉士会主催 平成24年度介護福祉士養成施設卒業時共通試験問題作成協力委員
10. 2013年 社団法人日本介護福祉士会主催 平成25年度介護福祉士養成施設卒業時共通試験問題作成協力委員
11. 2014年 社団法人日本介護福祉士会主催 平成26年度介護福祉士養成施設卒業時共通試験問題作成委員
12. 2015年 社団法人日本介護福祉士会主催 平成27年度介護福祉士養成施設卒業時共通試験問題作成委員
13. 2016年 社団法人日本介護福祉士会主催 平成28年度介護福祉士養成施設卒業時共通試験問題作成委員

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ マツサキ キチノスケ 氏 名 松崎 吉之助	職 名 講師 人間学部 心理福祉 学科	取得学位 博士(学術) (大学名)横浜国立大学 (取得年月) 2013年 12月
-------------------------------	------------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1.講義「介護福祉概論」	2014年～現在 に至る	社会福祉士受験資格取得のための指定科目である「高齢者に対する支援と介護保険制度」の読み替え科目である。介護保険制度、地域包括ケアシステムなど高齢者を取り巻く制度、システムの変化は絶えず変化しており、より複雑化している。そのため講義では教科書のほか、ニュース番組、新聞、雑誌などのメディアも積極的にとりあげ、様々な視点から最新の情報をタイムリーに学べるよう工夫した。そのほかにもリアクションペーパーを毎回実施し、学生の理解度を確認するとともに、質問には次の講義の中で説明することを心がけた。
2.講義「ソーシャルワーク論B」他	2014年～現在 に至る	社会福祉士受験資格取得のための指定科目である「相談援助の理論と方法」の読み替え科目の一部である。ソーシャルワークの様々なアプローチに関しては常に事例の中で理解することを意識し講義をおこなった。また、内容によっては積極的にニュースなどの映像を活用し、実際に学生が目で見てソーシャルワークの活動をイメージできることを心がけた。
3.演習「社会福祉援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」	2014年～現在 に至る	社会福祉士受験資格取得のための指定科目である「相談援助演習」の読み替え科目である。事例研究では、ワークシートを使った事前課題を課した。また演習の時間では小グループを作り、一人一人がより、演習に参加できるように配慮した。そのほかには実際の面接を想定したロールプレイを繰り返し行い、面接技術の習得に力を入れた。
4.演習「ソーシャルワーク臨床実習指導」	2014年～現在 に至る	社会福祉士受験資格取得のための指定科目である「相談援助実習指導」の読み替え科目である。個別指導と全体指導を通じ、実習の準備、実習中のフォロー、実習後のまとめを行った。

5.心理福祉総合演習Ⅲ	2014年～現在 に至る	心理福祉学科3年生の専門演習(ゼミ)。一人暮らし高齢者の生活課題をテーマとしてとりあげた。基本的な知識を習得した後、各自が自分の関心にそって文献をしらべ、まとめ、発表した専門分野の知識を習得し、問題意識を深め、プレゼンテーション能力を磨くことを目的とした。
6.心理福祉総合演習Ⅳ	2016年～現在 に至る	心理福祉学科4年のゼミ。高齢者、高齢社会をテーマとし、学生一人一人の興味関心に応じた研究を指導した。研究成果はゼミ論としてまとめた。2016年度は自治体による高齢者の見守り、高齢者の賃貸住宅事情、民間企業による高齢者の見守りなどのテーマをまとめた。

(2)過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
地域包括支援センター職員と民生委員の関係に関する研究～パートナー関係構築のプロセス～	単著	2012年3月	横浜国立大学技術マネジメント研究学会『技術マネジメント研究』11号			11-24
「1人暮らし認知症高齢者」への「継続的支援」～成年後見制度の活用を手掛かりに～	単著	2012年5月	光生館『大都市の地域包括ケアシステム「見えにくさと」と「描く力」』第6章		太田貞司編 7名	151-172
独居等認知症高齢者に対する成年後見制度申立て支援に関する研究～地域包括支援センター社会福祉士による支援プロセス～	単著	2012年7月	日本認知症ケア学会 『日本認知症ケア学会誌』 第11巻第2号			506-515

実用介護辞典	共著	2013年7月	講談社		大田仁史 三好春樹 編 26名	
地域包括支援センターの専門職と民生委員の連携・協働に関する研究～二者間で構築される「関係の質」を中心に～	単著	2013年12月	横浜国立大学大学院 博士論文			1-134
「自助」と「予防」と「ソーシャルワーク」～地域包括支援センターのソーシャルワーカーだからできること～	単著	2014年2月	神奈川県医療社会事業協会 『医療ソーシャルワーク』第48 集88号			34-37
住民である民生委員が役割を見出すプロセス～修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる分析～	単著	2014年4月	横浜国立大学技術マネジメント 研究学会『技術マネジメント 研究』13号			21-33
被災地の災害公営住宅における福祉・交流拠点の整備を通じた地域包括ケアへの支援に係る事業報告書	共著	2015年4月	一般財団法人高齢者住宅財 団		大坂純 志水田鶴子	102-117
生活支援コーディネーター養成テキスト	共著	2016年2月	全国コミュニティーライフサポ ートセンター	志水田鶴子	高橋誠一・大坂純・志 水田鶴子・藤井博志・ 平野隆之編	42-49
独居認知症高齢者支援における専門職と近隣住民の関わりについての研究—トラブルのある事例に対する地域包括支援センター専門職の取り組み—	単著	2016年3月	仙台白百合女子大学紀要 20 号			111-125

被災地における被災者支援員を介護人材に活用する方策に関する研究事業報告	共著	2016年3月	一般財団法人高齢者住宅財団		大坂純 志水田鶴子	53-71
生活の中の老年学「あらためて考えてみる新しい介護保険制度について」	単著	2016年9月	横浜国立大学安藤研究室『ジェロントロジー』NO3			2
ある実践から検討する医療ソーシャルワーカーの地域活動の可能性～地域包括ケアシステム・地域共生社会の視点から～	共著	2017年(査読済み・印刷中)	日本医療社会福祉協会『医療と福祉』NO102	富永千晶	松崎吉之助, 富永千晶	8ページ

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
地域包括支援センター社会福祉士による成年後見制度申し立て支援に関する研究			2010年6月	日本地域福祉学会第24回全国大会		
Cooperation between Comprehensive Community Support Centers and Minsei-iin			2011年7月	21st Asia-Pacific Social work Conference		
宮城県における被災者支援従事者研修の評価に関する研究(1)			2015年6月	日本地域福祉学会第29回全国大会		
宮城県における被災者支援従事者研修の評価に関する研究(2)			2015年6月	日本地域福祉学会第29回全国大会		

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本医療社会事業学会		2001年
日本地域福祉学会		2010年
日本社会福祉学会		2010年
日本認知症ケア学会		2011年

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

<p>神奈川県地域包括支援センター初任者研講師 2009～2013 相模原市認知症対応型サービス事業者管理者研修講師 2011～2016 横浜市地域包括支援センター初任者研修講師 2012～2013 神奈川県地域包括支援センター現任者研修講師 2012～2013 神奈川工科大学創造工学部ロボットメカトロニクス学科 非常勤講師 2012～2014 日本社会福祉教育専門学校 非常勤講師 2013～2014 神奈川県認知症対応型サービス事業者管理者研修講師 2014～2016 仙台白百合学園非常勤講師 2015～ 仙台白百合学園スクールソーシャルワーカー2016～2017 放送大学面接授業講師 2015～2017</p>
--

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏名	ヨシダ ヒロミ 吉田 弘美	職名 人間学部	講師 心理福祉学科	取得学位 (大学名) (取得年月)	修士(健康福祉) 東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科 2005年3月
------------	------------------	------------	--------------	-------------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
①介護実習事例会の実施	2012.2～	介護福祉士養成課程では最終段階の介護実習終了後に、現場で学んだ受け持ち利用者の介護過程の展開を振り返り、事例報告集を作成している。特に、アセスメントと考察の個別指導を丁寧に行い、学生と語り合う中で介護観・福祉観をみつめる機会としている。 これまでは在学生、施設の実習指導者や入学を予定している高校生に参加を働きかけていたが、2015年度には学内での報告会の後、公開講座として福祉現場の介護職員の事例報告会に参加する機会をつくった。2016年度には他の養成施設と合同の報告会を企画実施し、プレゼンテーション方法の向上につながっている。
②生活支援技術の授業展開の工夫	2012.6～	「移動の介護」では、1年次の基礎学習を発展させ、泉中央付近での車いす外出を2年次に実施した。グループで立案した外出支援計画書に沿って体験学習を行い、事後指導にはレポート作成や報告会を行った。要介護者および介護者、地域住民の立場で多角的に考察することができた。また、「福祉用具の活用法」の単元では、リハビリテーション工学の視点から評価する演習を行い、観察力、分析力を養った。
③心理福祉総合演習 I ならびに心理福祉実習の授業計画の立案と施設開拓	2012.4～2014.3	新学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーを鑑み、導入教育として重要な科目として位置づけられる。資格や仕事のイメージを具体化するために、多様な施設での見学体験実習の機会を取り入れた。心理福祉の領域に偏りが出ないように、大幅な施設開拓を試み、初年度開講の実習教育環境を整備した。

④チアダンス部「VELVETS」の活動場所の開拓と広報	2013.9～	活動の場を広げるために、顧問として高齢者や障害者施設の夏祭りイベントに参加を促したり、地元のプロバスケットチームチアーズとのパフォーマンスに働きかけた。またその活動をホームページに掲載したことで、私立大学紹介の雑誌にも取り上げられた。 2015年度には、宮城県介護福祉士会主催の「介護の日」のイベントにも参加し、本学のPRや介護のイメージアップにつなげた。
⑤「心理福祉総合演習Ⅱ」ゼミ研究成果報告会の開催	2014.12	「心理福祉総合演習Ⅱ」ゼミ研究成果発表の機会として、白百合祭ならびに公開講座を2年アドバイザーとして企画運営に携わる。
⑥心理福祉総合演習ⅢⅣの授業展開	2015.1～	ゼミの大テーマである「施設における高齢者や障害者の生活のあり方」をもとに、学生自身の問題意識を尊重しながら研究テーマを設定している。文献研究のほか学外授業も取り入れ広い視野で学習を深めている。成果として、3年・4年合同の報告会やゼミ論を作成している。
⑦「国際福祉体験実習」研修報告書の作成と広報	2016.3	心理福祉学科のグローバルWGの責任者ならびに科目担当者として、研修の企画立案と運営ならびに事前事後指導を行う。12名の参加があり、成果物として、初めて活動報告書を作成する。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
〔論文〕 「環境因子から見た介護福祉士養成の現状」	単	2017.3	仙台白百合女子大学紀要 第21号			87-97

<p>[報告書] 「平成23年度 宮城県潜在的有資格者等養成支援事業報告書 -キャリアアップ支援研修-」</p>	共	2012.3	聖和学園短期大学保育福祉学科介護福祉専攻	東海林初枝 庄子幸恵 他3名		1-36
<p>東日本大震災における支援物資としての介護機器の支援状況に関する検証研究</p>	共	2013.5	第23回フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団報告書	吉田泰三 樫本堅一 他1名		1-30
<p>[研究ノート] 初めての施設実習で遭遇した気がかりと感じた場面の分析～第1段階介護実習のリアクションペーパーより～</p>	共	2011.1	仙台白百合女子大学 紀要 第15号	家子敦子		89-96
<p>[資料] 介護福祉士のための福祉用具評価ツールに関する一考察</p>	単	2011.1	仙台白百合女子大学 紀要 第15号			97-107
<p>[その他(著書)] 「利用者が見える介護記録」</p>	共	2010.12	日総研	佐藤弥生・山野英伯 編著 15名		72、81-82、 98-99、 146-148

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
「施設介護職員へのキャリアアップ支援」 －現場の実事例を用いた介護過程の実際－	2012.9	第20回日本介護福祉学会大会(京都)
施設介護職員へのキャリアアップ支援〔第3報〕 －介護過程実践研修前後の意識の変化－	2013.10	第21回日本介護福祉学会大会(熊本)
介護職員に向けた介護過程展開シートの考案 －介護過程展開法の施設研修の実施より－	2014.10	第12回日本介護学会(山口)

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本介護福祉教育学会		2001.4
日本介護福祉学会		2002.4
日本介護学会		2004.3
日本社会福祉学会		2005.3
日本行動療法学会		2009.6

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
宮城県	2012	福祉・介護人材 キャリアパス支 援事業 講師派遣事業	施設の実事例による介護過程の展開方法	123万円
フランスベッド	2012	公益財団法人フ ランスベッド・メ ディカルホーム ケア研究・助成 財団	東日本大震災における支援物資としての介護機器の支援状況に関する検証研究	40万円
宮城県	2013	潜在的有資格 者等再就業促 進事業キャリア アップ支援研修	本学の介護福祉士養成施設卒業生を対象としたキャリアアップ研修	46.8万円
宮城県	2014	潜在的有資格 者等再就業促 進事業キャリア アップ支援研修	本学の介護福祉士養成施設卒業生を対象としたキャリアアップ研修	98万円

宮城県	2016	介護の魅力イメージアップ事業 入学促進事業 (高校対象)	宮城県内の高校生とその保護者に向けた体験型授業を通して介護の魅力を発信	49 万円
-----	------	------------------------------------	-------------------------------------	-------

3. 特記事項

- ・介護教員講習会修了(厚生労働省)2007・10
- ・第 20 回介護福祉士国家試験(実技試験)実地試験委員 2008・3
- ・介護技術講習会主任指導者 2008.9
- ・医療法人徳洲会平成 20 年度東北ブロック介護職員中堅者研修講師(「根拠のある介護」～介護過程の展開について～)2008・10
- ・第 16 回日本介護福祉学会大会 ポスター発表座長 2008・11
- ・平成 20 年度介護福祉士養成施設実習指導者特別研修会講師(「介護過程の理論と指導方法<演習>」担当) 2009・2
- ・平成 21 年度介護福祉士養成施設実習指導者特別研修会講師「介護過程の理論と指導方法」担当 2009・7、2009・11
- ・第 22 回介護福祉士国家試験(実技試験)実地試験委員 2010・3
- ・平成 22 年度介護福祉士養成施設実習指導者特別研修会講師(「介護過程の理論と指導方法<演習>」担当) 2010・8、2011・1
- ・第 23 回介護福祉士国家試験(実技試験)実地試験委員 2011・3
- ・宮城県介護福祉士会の要請により、東日本大震災時の避難所での夜間介護支援に従事する。2011・3、2011・5
- ・平成 23 年度介護福祉士養成施設卒業時共通試験問題作成協力員 2011・7
- ・平成 23 年度介護福祉士養成施設実習指導者特別研修会講師(「介護過程の理論と指導方法<演習>」担当) 2011・7、2011・11
- ・被災者就労支援事業 2級訪問介護員養成研修「高齢者、障害者の心理」、「相談援助とケア計画の方法」、「実習前指導」の講義担当 2012・2
- ・第 24 回介護福祉士国家試験(実技試験)実地試験委員 2012・3
- ・平成 24 年度福祉・介護人材キャリアパス支援事業 講師派遣事業施設介護職員に対する「実事例による介護過程の展開」 2012・10～2013・1
- ・平成 24 年度被災者就労支援事業 2級訪問介護員養成研修「生活支援技術」、「相談援助とケア計画の方法」を担当 2013・1
- ・平成 24 年度被災者就労支援事業 2級訪問介護員養成研修「生活支援技術」を担当 2013・2

- ・平成 25 年度宮城県 潜在的有資格者等再就業促進事業 キャリアアップ支援研修 2013・4～
- ・平成 25 年度厚生労働省都道府県労働局 成長分野等人材育成支援事業 施設介護職員に対する「実事例による介護過程の展開」、「生活支援技術」 2013・4～
- ・平成 25 年度仙台市泉区介護認定審査会委員 2013・4～2017・3
- ・平成 25 年度介護福祉士養成施設実習指導者特別研修会講師(「介護過程の理論と指導方法<演習>」担当) 2013・11、2014・3
- ・第 26 回介護福祉士国家試験(実技試験)実地試験委員 2014・3
- ・平成 26 年度介護福祉士養成施設実習指導者特別研修会講師(「介護過程の理論と指導方法<演習>」担当) 2014・7
- ・2014 年度仙台白百合女子大学オープンキャンパス模擬授業担当 2014・7
- ・2014 年度仙台白百合女子大学出張講座 2014・6(三戸高校)、2014・11(石巻北高校)
- ・2014 年度宮城県介護福祉士養成施設協会研修会主管校統括 2014・12
- ・2015 年度仙台白百合女子大学オープンキャンパス模擬授業担当 2015・7
- ・2015 年度仙台白百合女子大学生涯学習講座「賢く生きる生活に役立つ基礎知識」講師 2015・8
- ・2016 年度仙台白百合女子大学生涯学習講座「生活を豊かにする」講師 2016・8
- ・社会福祉法人仙台白百合会評議員 2017・4～2020・6

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏名	カムラ アイ 嘉村 藍	職名 人間学部	助教 心理福祉学科	取得学位 (大学名)	臨床福祉学修士 北海道医療大学 (取得年月) 2006年3月
------------	----------------	------------	--------------	---------------	--------------------------------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
<p>1. 教育内容・方法の工夫 (1) 2013年度から家族支援論(前期)、社会福祉調査論(後期)、心理福祉総合演習Ⅰ～Ⅱ(通年で、ⅠからⅡへの持ち上げりを繰り返す)を担当している。前半2科目についてはリアクションペーパーを活用している。</p> <p>2. 作成した教科書、教材、参考書等</p> <p>3. 教育方法、教育実践に関する発表 (1) 日本社会福祉教育学会 第11回大会 シンポジウム 「実習『前』評価システムの検討とOSCEの試行」</p>	<p>2013年4月から</p> <p>2015年 8月23日</p>	<p>リアクションペーパーにて授業の理解度を確認し、質疑を受け付け、次回講義の際に回答するなど工夫をしている。</p> <p>日本社会福祉教育学会 第11回大会 大会テーマ「福祉専門職養成教育の充実と新たな課題への取組み」 上記の大会の学会企画シンポジウムⅡにて、シンポジストとして報告を行った。 シンポジウムのテーマ:「実習『前』評価システムの検討とOSCEの試行」 会場: 東北公益文科大学</p>

<p>4. その他 教育実践上特記すべき事項</p> <p>(1) ICT を活用した社会福祉士国家試験受験対策</p> <p>(2) ICT を活用した授業の補助</p>		<p>2009 年度から ICT を活用した社会福祉士国家試験対策に関する試行を実施している。試験運用であるため参加者は数名に限られているが、2009 年度は在學生（9 名）を中心に、2010 年度からは卒業生（在學生 3 名卒業生 3 名）も対象として、2011 年度は卒業生に加えて下学年の在學生も対象として（下学年 7 名、4 年生 1 名、卒業生 5 名）実施してきた。本取り組みに参加する者のうち、受験資格者の社会福祉士国家試験の合格率は、2009 年度 66.6%（全国平均 27.5%）、2010 年度 16%（全国平均 28.1%）、2011 年度 80%（全国平均 26.3%）であった。</p> <p>2015 年度は心理福祉学科の国家試験対策の一部として自主ゼミ（白川ゼミ）のサポートとして運用のサポートをした。</p> <p>本学の学習支援システムである Moodle を活用して、一部の授業の ICT の活用の補助を実施している。具体的には、ソーシャルワーク基礎論、ソーシャルワーク論 A（担当：白川充教授）で使用している教材を学生たちが復習のために閲覧できる環境を整えている。</p>
---	--	---

(2) 過去 5 年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称	共著者名 （共著の場合）	編者名と当該執筆 者数（編著の場合）	該当頁数
[著書]						
[論文] e-learning による学年別社会福祉士国家試験対策システムの試行	共著	2013 年 3 月 31 日	人間発達研究センター 紀要「人間の発達」第 8 号	嘉村藍、白川充、熊谷健二、木村有里		33-47

[研究ノート] Moodleによるe-testing 学習支援システムの試行 —社会福祉士国家試験対策システムを中心に— (2)	共著	2011年3月	仙台白百合女子大学 紀要第16号	嘉村藍、白川充、熊谷健二、木村有里		79-102
[研究報告] ICT活用教育に関する研究—社会福祉士国家試験対策システムの開発とICTの授業への援用—	共著	2013年3月31日	人間発達研究センター 紀要「人間の発達」 第8号	嘉村藍、白川充、熊谷健二、木村有里		65-66
[科研費報告書] 災害ソーシャルワーク理論の体系化に向けた「機能特性」に関する実証的研究 調査研究報告書	共著	2017年1月	科研費報告書	白川充、岩間伸之、嘉村藍、村山くみ、米山朱里		
2014(平成24)から2016(平成28)年度科学研究費助成事業挑戦的萌芽的研究『教育モデルと評価システムの構築による福祉専門職養成教育に関する総合的研究』	共著	2017年3月	科研費報告書	嘉村藍、白川充、池田雅子、熊谷健二、宮本雅央、植木祐子、藤井美子、小渡加衣、阿久澤望、藤田恵美、斉藤友香		

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
「実習『前』評価システムの検討とOSCEの試行」 * 学会企画シンポジウム	2015年8月23日	日本社会福祉教育学会 第11回大会シンポジウム(東北公益文科大学) * (日本社会福祉教育学会学会誌14号 pp.111-141)
改訂版社会福祉系モデル・コア・カリキュラムをベースとしたOSCEの試行について	2014年11月23日	2014年度北海道ブロック社会福祉実習セミナー(北星学園大学) * 「2014年度北海道ブロック社会福祉実習セミナー報告書」(pp145-153)
福祉系4年制大学におけるeラーニングに関する実態調査報告	2012年8月	日本社会福祉教育学会(立正大学)
社会福祉系4年制大学におけるeラーニングに関する実態調査及び追調査に関する結果と考察	2012年12月	大学ICT推進協議会(神戸国際会議場)
Moodleによる社会福祉士国家試験対策2011年度の試行	2011年12月	大学ICT推進協議会(論文集 pp.163-166.)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本社会福祉学会		2004
日本精神科救急学会		2005
日本ソーシャルワーク学会(旧:日本社会福祉実践理論学会)	2012年度、2013年度社会貢献部会震災対応プロジェクト担当委員	2007
大学教育学会		2007
日本社会福祉教育学会	事務局員(2015年度~)	2006
CIEC(コンピュータ利用教育研究協議会)		2010

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
独立行政法人日本学術振興会	2014～2016年度	科学研究費補助金(挑戦的萌芽的研究)課題番号:26590115	『教育モデルと評価システムの構築による福祉専門職養成教育に関する総合的研究』(研究代表:嘉村藍)	3,510,000
独立行政法人 日本学術振興会	2013～2016年度	科学研究費補助金(基盤研究C)課題番号:25380762	『災害ソーシャルワーク理論の体系化に向けた「機能特性」に関する実証的研究』(研究代表:白川充)	4,810,000

3. 特記事項

--

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏名	ミウラ カズオ 三浦 和夫	職名 人間学部	助教 心理福祉学科	取得学位 (大学名)	博士(社会福祉学) 東北福祉大学	(取得年月) 2017年 3月
------------	------------------	------------	--------------	---------------	---------------------	-----------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
(1) 介護実習事例報告集の作成と介護実習事例報告会の実施	2012年度～現在	・最終段階の介護実習終了後は、実習中受け持った利用者の介護過程の振り返りを行い、介護実習事例報告集としてまとめている。また、介護実習事例報告会に向けて発表等の準備を行い、プレゼンテーション方法の向上につなげている。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
<著書> ①「4. 高齢者福祉施設での実習 2(通所・短期入所型)」	共	2014年1月	「相談援助実習・相談援助実習指導[第2版] ソーシャルワーク現場実習・ソーシャルワーク実習指導」22	早坂聡久・増田公香ほか 21名	早坂聡久・増田公香 責任編集(執筆者 23名)	116-119
<論文> ①「認知症の行動・心理症状(BPSD)に関わる施設介護職員の介護負担感の軽減要因について ―在職年数別の軽減要因―」	単	2012年3月	東北福祉大学大学院総合福祉学研究科紀要 9			1-11
②「通所介護職員における個別的職務満足感の関連要因について ―組織的特性と仕事特性に焦点をあてて―」	単	2013年1月	仙台白百合女子大学紀要第17号			77-86

③「通所介護施設職員における職場特性に関する研究－性別・雇用形態別の比較検討－」(論文)	単	2014年5月	社会福祉学 55(1)			89-99
④「認知症者の在宅介護に関する研究－配偶介護における妻介護者を中心に－」	単	2017年3月	東北福祉大学大学院 博士論文			

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
①通所介護職員の全体的職務満足感に関連する要因	2012年6月	日本老年社会科学会第54回大会(口頭発表)
②通所介護職員における個別的職務満足感の関連要因について－組織的特性と仕事特性に焦点をあてて－	2012年9月	第20回日本介護福祉学会大会(口頭発表)
③通所介護職員における組織的特性と仕事特性に関する研究－雇用形態別による比較検討－	2013年5月	第14回日本認知症ケア学会大会(口頭発表)
④通所介護職員における職場特性と職務満足感との関連について－雇用形態別の比較検討－	2014年5月	第15回日本認知症ケア学会大会(口頭発表)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
①日本認知症ケア学会		2007年
②日本介護福祉学会		2007年
③日本感性福祉学会		2007年
④日本社会福祉学会		2008年
⑤日本老年社会科学会		2009年

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
独立行政法人 日本学術振興会	2015-2017	平成 27 年度 科学研究費助成事業(若手研究 B)	「高齢者福祉施設における介護職員の離職軽減に関する基礎的研究」	2,470,000 円

3. 特記事項

・学校法人 江渡学園 八戸社会福祉専門学校 非常勤講師	(2008年～2010年)
・学校法人 富澤学園 東北文教大学 非常勤講師	(2010年)
・学校法人 富澤学園 東北文教大学短期大学部 非常勤講師	(2010年)
・介護福祉士国家試験(実技試験)実地試験委員	(2013年3月～2016年3月)
・宮城県認知症ケア専門士会 監事	(2012年2月～現在)